

「事務局」のための「ことば」の使い方

「事務局」は、プロジェクトの環境を整え、動かし、育てる重要な役割を担います。プログラムオフィサーとして「事務局」の体制づくりに取り組むなかで、「『事務局』とは何をする人ですか」という質問をよく受けます。アートプロジェクトを動かすには欠かせない存在ですが、アーティストと違い、あまり表舞台には出てこないため、「事務局」の日々の業務とは、なかなか想像しづらいものなのかもしれません。

本書では、アートプロジェクト運営を担う「事務局」が日々直面する業務や状況に関わることばを取り上げています。それらのことばは特別なことをいっていないようにみえるかもしれませんが、ことばが意味する事柄一つひとつを日常業務として、丁寧かつ効果的にこなしていくには、それなりの環境やマネジメント技術が必要となるでしょう。

これはマニュアル本ではありません。ここに書かれたことを、ともにプロジェクトを展開する仲間とたどることで、自分たちの活動の意義を確認したり、活動を価値化するためのアクションにつなげたり、行き詰まった時には突破口となるようなヒントを探したり、自分たちなりのやり方を見出し、対話を生みだすための本です。

大事なのは「何のためにアートプロジェクトをやるのか」という問いを常に抱えながら、自分たちの活動について語り合い、振り返り確認すること。また、そのための時間をつくり共有すること。それによって活動の思想がつくれ、活動の価値が言語化されていきます。

「いしづえ」「ひろげる」「つづける」という3つの切り口からことばを掲載していますが、必ずしもことばを順番に読む必要はありません。そのときどきで気になることばや、必要なことばを拾いながら活用いただければと思います。

「事務局」の活動基盤をつくり、日々の業務をクリエイティブなものにする「事務局」のためのことばを紹介します。

坂本有理 [東京アートポイント計画プログラムオフィサー]

p10～p80 執筆者／東京アートポイント計画プログラムオフィサー

SO= 大内伸輔 YS= 坂本有理 RS= 佐藤李青 RA= 芦部玲奈

KN= 中田一会 TY= 嘉原妙 RU= 上地里佳